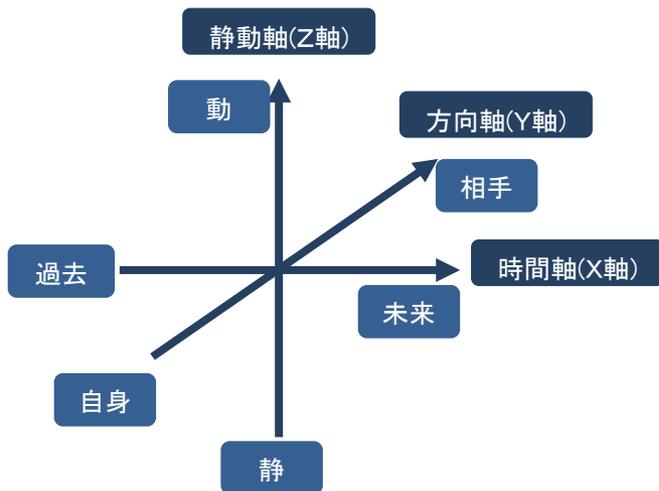
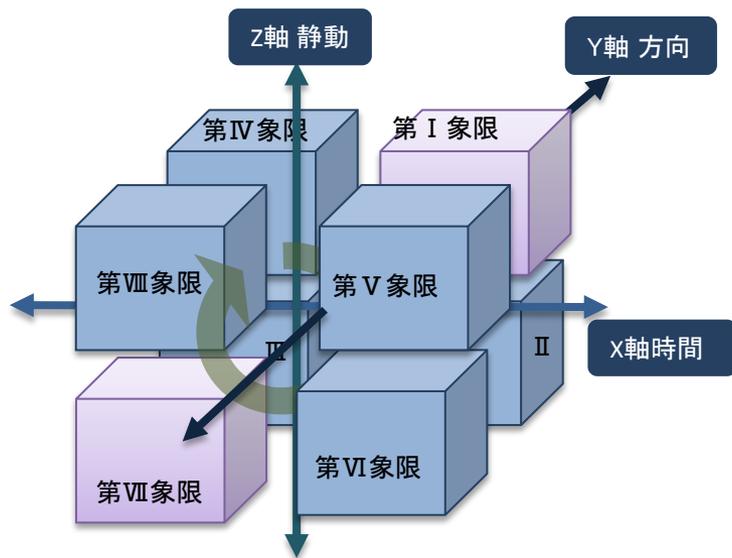


# 伝える、考える、行動の方向



知識活用は、活用の方向によって、効果が決まってくる。

時間軸、方向軸、静動軸の3つで構成される象限で、人の姿勢と方向が定まる。

一つ一つの行動、思考の位置がどこにあるかを確認し、常に第一象限にあるように定めていく。

## ●時間軸——未来と過去

常に未来を考え、未来を問う。如何に進めるか、如何なる状態を創り出すかを考える。

過去は変えようがない。行動は常に前を向く。

## ●方向軸——考える、行動する方向

自らを生かすために相手の方向を向き、相手のために想う。

自分を生かすために、自分を考えれば、仲間はいなくなる。

自己主張は、相手を想って自身が表現できる。

## ●静動軸——活動する、活動できるを前提にする。

自らだけの行動ではなく、周辺の人々と共に行動できるように整えていく。共通の前提、共通の目的が必要になる。

人のすべての思考と行動は、自分を中心に行われている。行動するのは自分であるが故に、善い行いも考えも、自分であるが故に、自分への満足が必ず存在する。協働、相互依存等々は、左図に示しているように、自らの思考と行動を第一象限に置くようにする。

教育の思考と行動は、相手がいて出来る。相手の成長は、自己認識と共に、相手、社会、環境へと向いて成功率が上がっていく。

第一象限の範囲にて、伝え、第一象限に向けるように図っていく。